

黒人大統領が登場するアメリカ映画 (2015年6月4日)

本書の第2部「演習編」では、『国民の創生』(1915)『フィフス・エレメント』(1997)『ヒップホップ・プレジデント』(2003)を、黒人の大統領が登場する映画として注目し分析しました。(『国民の創生』では、「大統領になろうとする」黒人を分析。)3作品とも、オバマ大統領登場以前に製作された映画です。

『国民の創生』では、大統領になりたがる黒人男性を、まるで「黒人であるがゆえに狡猾で暴力的」であるかのようにステレオタイプ的に描き、「大統領になりたがる黒人など、到底まともとは言えないのだ」「黒人が大統領になるなど、あってはならないことなのだ」と強く訴えかけました。一方、『フィフス・エレメント』に登場する惑星連邦の大統領は、「黒人が大統領になっている＝この映画の舞台は未来社会」と、映画を観ている人に示すために登場します。いわば「近未来を表す記号」としての大統領でした。

一方で、本書の「はみ出しコラム」(79-80ページ)では、『ホワイトハウス・ダウン』(2013)というアメリカ映画に登場する黒人大統領を、注目すべき黒人像として紹介しました。オバマ大統領が実現した現代では、もはや「近未来の記号、象徴」ではないのですが、では、この映画で黒人大統領に託されたイメージとは...?

このように、「黒人大統領」、つまり黒人が大統領であることは、アメリカ映画分析ではひとつの重要な分析ポイントとなりえます。紙面の都合で、本書で紹介しきれなかった**黒人大統領が登場するアメリカ映画**を紹介しましょう(あらすじは、すべて allcinema からの引用です)。

『ザ・マン／大統領の椅子』<日本未公開> (*The Man*, 1972年)

【こんな作品】

近未来のアメリカを舞台に、現大統領が事故死したため、史上初の黒人大統領となる上院議員の姿を描いたシミュレーション・ドラマ。J・E・ジョーンズが堂々とした演技を見せ圧巻。監督は、傑作SF「地球爆破作戦」や良質のTVムービーを多数手掛けるJ・サージエント。元々TV用に作られた作品だが、アメリカでは劇場公開された。

(“allcinema” 解説より)

http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=9061 2015年4月12日確認)

【解説】

事故で大統領または大統領候補が亡くなり、本来ならあり得ないはずの黒人大統領が登場する話——本書で紹介した『ヒップホップ・プレジデント』と似た感覚のストーリーです。

『ディープ・インパクト』 (*Deep Impact*, 1998 年)

【こんな作品】

ホワイトハウスの女性スキャンダルを追っていたテレビ局のジェニーは、「エリー」という名に行き当たる。だがそれは女性の名ではなく、“Extinction Level Event (種の絶滅を引き起こす事象)” の略称だった。大統領は、1年後に未知の彗星が地球に衝突する可能性があることを公表。これを阻止すべく彗星を核爆発させて軌道修正するプロジェクトが実行されたが、結果は失敗。衝突が刻一刻と迫る中、ついに大統領は地下に選ばれた100万人だけを移住させる計画を発表するのだった.....。

(“allcinema” 解説より)

http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=84126 2015年4月12日確認

【解説】モーガン・フリーマンが演じるトム・ベック大統領は、理想の大統領ともいうべき活躍をし、アメリカ国民の頼りになるリーダーとして、最後まで人々を導く。彗星の発見者が少年であったという設定や、彗星に深い穴を掘って爆薬をしかけて粉砕するというプロジェクトが描かれるなど、色々な意味で「ディープ・インパクト」(深い衝撃)が満載の映画だが、なかでも大きなインパクトは、大統領が黒人であることだ、とする評論もあった。

『26世紀青年』 <日本未公開> (*Idiocracy*, 2006 年)

【こんな作品】

極秘実験で一時的な冬眠状態にされるも手違いで500年後に覚醒した男が、国全体がおバカになっている有様に驚愕しながらその改善へ奔走する姿を描いたSFコメディ。

アメリカ国防総省は、極秘で人間による冬眠プログラムを進めていた。そして被験者には、典型的なアメリカ人である兵卒のジョー・パウアーズと、売春婦のリタが選ばれた。1年間という設定で実験は開始された。しかし、責任者が不在となり、ジョーたちは忘れ去られた存在となってしまう。やがて、2人が目覚めた時には、何と500年が経過していた。しかし、未来の世界は、国民の民度が著しく低下しており、環境破壊も歯止めが効かず、全てが墮落しているという体たらく。そうした中、最も優秀でマトモな人間のジョーが国務長官に任命され、様々な問題を一手に引き受けるハメに。ジョーはタイムマシンを使って過去に戻り、未然に対策を講ずるしかないと判断するのだが...

(“allcinema” 解説より)

2014年4月12日確認 http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=332382

【解説】

主人公のジョーは、どこから見ても「平均的な男」であったが、500年後の未来社会では、知能指数がだれよりも高い天才として尊敬されることになってしまう。では、なぜ未来社会で人類の知能レベルはさがっていくのだろうか——映画では、「知的レベルが低い人間ほど繁殖力が強く、そういう人間の子孫ばかりが増えていったので」と、説明づけていく。

そんな 500 年後のアメリカ大統領は、プロレスラーの黒人男性コマチョである。彼は、「知的レベルは低く、繁殖力が非常に高い」屈強な大男である。「こんな人が大統領になるとは、世も末だ」という感じの演出である。

コマチョ大統領を筆頭に、国民全員が愚かであるがゆえに滅びつつある未来のアメリカ社会を、ジョーは国務長官として立て直していく、彼はついに新大統領となり、リタは、ファーストレディとなる。二人があたかも新世界のアダムとイブのように描かれ、彼らのおかげで黒人リーダーによってめちやくちやにされかけたアメリカという国が息をふきかえす。この設定は、『国民の創生』によく似ている。

『2012』(2012, 2009年)

【こんな作品】

『デイ・アフター・トゥモロー』『紀元前1万年』のローランド・エメリッヒ監督が放つパニック・サスペンス巨編。2012年12月21日に地球滅亡が訪れるというマヤ文明の暦にヒントを得た終末説を基に、世界中で怒濤のごとく発生した未曾有の天変地異に人類が為す術なく襲われていくさまを驚異のスペクタクル映像で描く。出演は『ハイ・フィデリティ』のジョン・キューザック、『アイデンティティ』のアマンダ・ピート、『キンキーブーツ』のキウエテル・イジョフォー。

ロサンゼルスでリムジン運転手をしている売れない作家ジャクソンは、別れた妻ケイトのもとに暮らす子供たちと久々に再会し、イエローストーン公園までキャンプにやって来た。彼はそこで怪しげな男チャーリーから奇妙な話を聞かされる。それは、地球の滅亡が目前に迫っており、その事実を隠している各国政府が密かに巨大船を製造、ごく一部の金持ちだけを乗せ脱出しようとしている、という俄には信じられない内容だった。しかし、その後ロサンゼルスをかつてない巨大地震が襲い、チャーリーの話が嘘ではないと悟るジャクソン。そして、大津波や大噴火など、あらゆる天変地異が世界中で発生、次々と地球を呑み込んでいくことに。そんな中、ジャクソンはケイトと子供たちを守るため、巨大船のある場所を目指して必死のサバイバルを繰り返すのだが....

（“allcinema” 解説より）

http://www.allcinema.net/prog/show_c.php?num_c=332430 2014年4月12日確認

【解説】

この映画の黒人大統領は、ダニー・グローバーが演じている。『ディープ・インパクト』の大統領とよく似た雰囲気、まじめで有能な「理想の大統領」という感じである。地球滅亡の危機に際し、世界各国のリーダーが一堂に会して話し合いをするシーンでは、国家元首のほとんどが白人で占められるなか（日本はアジア人俳優が演じているが）、ただ一人の黒人国家元首として、采配をふるう様子が格好良く描かれる。

大統領は、限られた人しか乗り込めない避難艇に「ホワイトハウスに残って避難してきた人々を最後まで救援したい」という理由で乗船しない。大統領は途中で死亡するが、黒人主人公（科学者）は生き残り、クライマックスで、大統領の娘でホワイトハウスに勤務している女性と結ばれる。

*補足

ほかに、「大統領」と明言はしないものの、近未来の世界でアメリカ合衆国を牛耳っているとんでもない黒人政治家が登場する映画もある。映画『エンド・オブ・ザ・アース』（*Rapture-Palooza*, 2013 劇場未公開作品）である。

クレイグ・ロビンソン（*Craig Robinson*）演じるこの政治家の名は、アール・ガンジー（*Earl Gundy*）。*The Beast*（野獣）というニックネームでよばれる、その名のとおり野卑な男である。この映画の舞台である近未来のアメリカでは、善良な人々は全て天に召されており、「だめな人々」だけが生き残っている。そのアメリカを導く政治的リーダーとして彼は君臨する。町中に“**Follow the Beast!**”（野獣に従え!）というポスターが貼られ、「アメリカもこうなったらおしまい」というダークなユーモア満載で、話は推移する。

ビーストは、ヒロインの白人女性を妻にしようとするトーカー行為をするが、クライマックスで、ヒロインは白人男性ヒーローにより救出される。ビーストの「私と結婚してクイーンになってくれ!」というセリフは、『国民の創生』のサイラス・リンチのセリフと酷似している。

*補足2

TVドラマで黒人大統領が登場するものとして、『24（トゥウェンティフォー）』が有名。